

ポートフォリオについて

本編 研究の内容 4 自己効力感を高める体験活動の構想 (1)自己効力感を高める体験活動を構想する上での基本方針 イ「適切な自己観察」での留意点に関する資料

< ポートフォリオの意義 >

子ども自身が活動を形成的にとらえる。

子ども自身が自らの変容を省みる。

< ポートフォリオづくりの原則 >

ポートフォリオづくりは子どもと教師の共同作業である。

子どもと教師が具体的な作品を蓄積する。

蓄積した作品を一定の系統性に従い、並び替えたり取捨選択したりして整理する。

ポートフォリオづくりの過程では、ポートフォリオを用いて話し合う場（ポートフォリオ検討会）を設定する。

ポートフォリオ評価法は長期的で継続性がある。

< ポートフォリオ検討の基本 >

教師の評価基準によって道すじをつくるのではなく、子どもの中にあるものを活用し、子どもと教師が相互に作用しながら方向性を導き出す。

< 教師と子どもによるポートフォリオ検討の7ポイント >

子どもへのオープンクエスチョン

子どもの語りを辛抱強く待つ

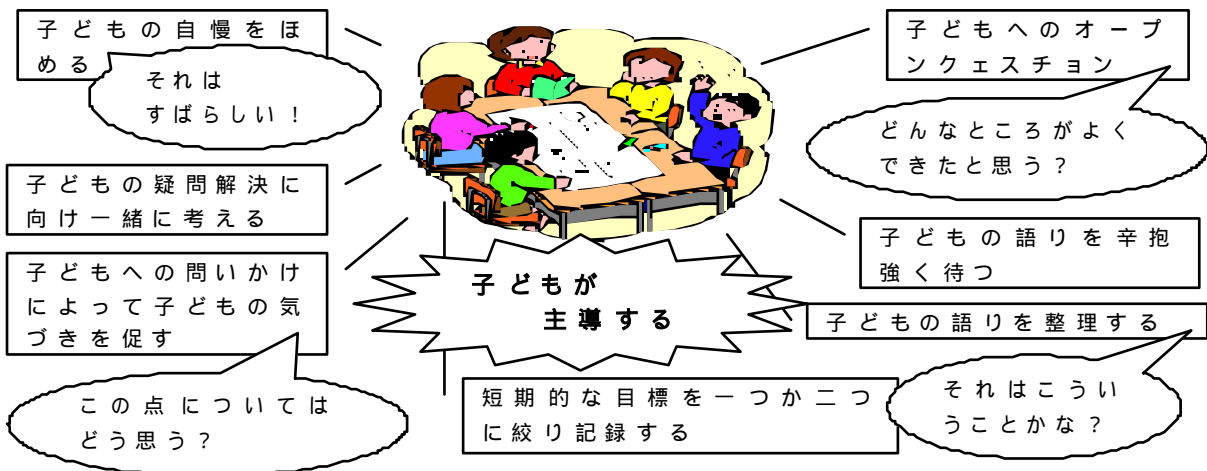
子どもの語りを整理する

子どもの自慢をほめる

子どもの疑問解決に向け一緒に考える

子どもへの問いかけによって子どもの気づきを促す

短期的な目標を一つか二つに絞り記録する



◀ 資料Ⅳへ

▶ 資料Ⅵへ

▲ TOP